

アフリカ、大洋州、アジア諸国の再生可能エネルギー行政官が 北九州市環境ミュージアムで水素エネルギーを学びます。

SDG s 持続可能な開発目標のゴール7

『エネルギーをみんなに、そしてクリーンに』

2050年までにカーボンニュートラルを実現するため、再生可能エネルギーを最大限に活用取り組みが世界中で進められています。

再生可能エネルギーの導入を活発に進めようとしている各国からの研修員7名は、講義、演習、視察を通じて、

太陽光発電をはじめとした再生可能エネルギーの日本の政策や最新技術を学んでいます。

技術研修が終わりに近づく**3月7日**、研修員たちは、**北九州市環境ミュージアム**を訪問し、CO2を発生させない究極のクリーンエネルギーである**水素エネルギー**の取り組みについても学びます。さらに、水素で走る燃料電池自動車のMIRAI（ミライ）の乗車体験も行われます。研修員からは活発な質問や意見がたくさん聞かれそうです。

ぜひ取材・報道をご検討ください。

- 研修コース名 : 再生可能エネルギー導入計画 太陽光発電を例として (A)
- 研修期間 : 2023年1月10日～2023年3月9日
- 協力機関 : 公益財団法人 北九州国際技術協力協会
- 研修員 : **アゼルバイジャン、アルメニア、インドネシア、ケニア、ソロモン、タンザニア (2名)、計7名**

■取材可能日

日付	時間	内容	場所
3/7 火	13:00～16:00	水素ステーション、スマート水素ステーション実証事業や、燃料電池自動車の普及に向けて水素社会への取り組み学び、燃料電池公用車である MIRAI の紹介されます。	北九州市環境ミュージアム 北九州市八幡東区東田 2-2-6

※本プレスリリースはウェブサイトでもご覧いただけます。 <https://www.jica.go.jp/kyushu/press/index.html>

問い合わせ先 JICA九州 研修業務課 小川、衛藤 093-671-8355